



【学校教育目標】自ら考え、判断し、人と共により良く生きようとする心豊かな子供の育成

右見て 左見て 安全に



毎朝の立哨や、下校時の見守りをする中で、気になっていることがあります。それは、わずか数メートルの横断歩道（正門前）ですが、ショートカットしてわたる子、左右の確認なしにそのまま横断する子がいることです。私が立っていることで安心してもらっているのだらうと嬉しく感じつつも、「普段からこんな横断の仕方だと・・・。」と心配になります。もちろん、反対に、私が旗を掲げているのに、しっかりと自分の目で安全を確認してからでないと渡らない子もいます。

そんな中、連休中に、育正会の交通安全母の会の方が、正門前の横断歩道手前に、以前から設置してあった、消えかけた「ストップマーク」を新しく貼り直してくださいました。ありがとうございます。これまでの「パンダのストップマーク」ではなく、長崎オリジナルのマークです。眼鏡橋とシューズのイラストとともに、「とまらんば」という何とも温かく語りかける表示が特徴です。先週の、登校時に何人もの子供たちが「おっ！」「あっ！」と気付いて立ち止まっていました。

目新しさだけでなく、これが交通安全に気を付ける箇所であるという意識をもって、安全に通行してほしいと願うばかりです。御家庭でもお声掛けをお願いします。

話は変わりますが、子供たちの朝の挨拶に変化が見られます。「ワンストップ」はもちろんですが、「おはようございます！」から「桐山校長先生、おはようございます！」となってきました。6年生の手本のお陰です。大変嬉しい時間を過ごしています。



語彙力を育てる ～その1～

1つの例として、「やばい」という言葉が日常的に頻繁に使われている実感があるのは私だけではないと思います。

さまざまな意味で乱発される「やばい」という表現は、いろいろなシチュエーションにおいて、そのときの瞬間的な危機感を煽る、非常に効果的な表現にも感じます。

やば・い <形容動詞「やば」の形容詞化>
危険や不都合な状況が予測されるさま。あぶない。
(小学館『大辞泉』)

言葉は日常的に使って自分のものにしていくなものです。だとすると、昨今の「やばい」によって置き換えられた言葉たちは、その人の中で風化していき、語彙力の低下につながるのではないのでしょうか。

語彙力は「表現力」「読解力」「理解力」の土壌になります。この「表現力」は、2020年以降の学習指導要領でも重要とされています。また、「人の話や文章を理解するとき」。こちらは、「読解力」や「理解力」とも言い換えられそうです。いくら理解しようとしても、そもそも使われている言葉の意味がわからなくては元も子もありません。さらに、「わからない人に向けて物事を説明するとき」。わからない人に向けて説明をする際には、自分が理解したことを整理し、噛み砕いて説明するために相手に合わせて言葉を選ぶことも必要になってきます。わかりやすく説明するためには、「理解力」、「表現力」がともに重要というわけです。

誰もが、お子さんには、語彙力をつけてほしいと思われるはずですが、では、実際に語彙力をつけるためにはどうしたらよいのでしょうか。 <～その2～（次号）へ続く>

現代の「やばい」の用法は多岐にわたります。ここに挙げていたものでも網羅できないくらいだと思います。
あやしい びっくり おもしろい 楽しい おかしい
かわいい かわいくない 速い おいしい 感動している
緊張している 意味が分からない などなど